

しんすい 浸水 に備える

新たな土地・建物を検討・建築されるみなさまへ

近年、豪雨等による大きな水害が頻発しています。

水害リスクの少ない場所を正しく把握し、水害に強い建物をつくりましょう。

Step

1

水害ハザードを調べよう

Step

2

災害リスクをふまえたまちづくりを知ろう

Step

3

建物の浸水対策をしよう

Step

4

避難のための準備をしよう

平成12年東海豪雨による本市の浸水状況



出典：庄内川河川事務所

Step1 水害ハザードを調べよう

川や海の近くや周囲よりも低い場所では、大雨、台風、津波などにより浸水被害が発生するおそれがあります。名古屋市ハザードマップや防災アプリでは洪水、内水氾濫、高潮、津波ごとに、災害が発生するおそれのある区域を調べることができます。どれぐらいの高さまで浸水するおそれがあるのか、スマートフォンやパソコンで調べてみましょう。

名古屋市防災アプリ

iPhone,iPad
こちらから▶



Android端末
こちらから▶



名古屋市ハザードマップ



Step2 災害リスクをふまえたまちづくりを知ろう ～居住場所の選択～

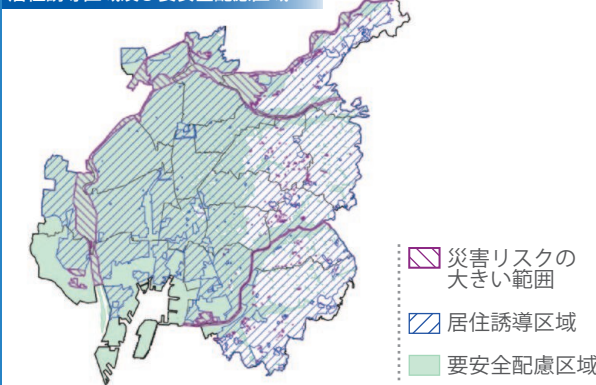
名古屋市では人口構造の変化などに対応するため「なごや集約連携型まちづくりプラン（立地適正化計画）」を策定し、「居住誘導区域（居住を誘導すべき区域）」を設定しています。

この居住誘導区域には、災害リスクが大きい範囲を含まないこととし、重点的に災害リスクの内容や対応方法の理解促進をはかっています。

しかし、居住誘導区域内にも一定以下の災害リスクがある範囲が含まれるため、その範囲を「要安全配慮区域」とし、災害リスクをふまえた居住方法の検討をお願いしています。

また、本プランでは災害リスクを減らすための取組などを整理した「防災指針」を定め、災害リスクをふまえたまちづくりを行っています。

居住誘導区域及び要安全配慮区域



名古屋市 要安全配慮区域



問合せ先

名古屋市住宅都市局都市計画課
TEL 052-972-2712 FAX 052-972-4164

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
メールアドレス a2712@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

Step3 建物の浸水対策をしよう

床上浸水を未然に「防ぐ」ための対策《例》



盛土を行い、敷地全体を浸水が想定される高さ以上にかさ上げる



建物の基礎を高くしたり、1階をピロティにすることなどにより、居室の床を浸水が想定される高さよりも高くする



浸水が想定される高さ以下の外壁をコンクリートなど止水性のある素材にする

床上浸水に「備える」ための対策《例》

水に浸かると故障のおそれのある分電盤や屋外施設機器を高い場所に設置

避難救助のためのバルコニーの設置

カーステップやプランターの除去

自宅付近の側溝の清掃

最低限の生活ができるように居間や水回りを2階へ配置

雨水の逆流を防ぐために逆流防止弁の設置

土のう、水のうや止水板を使った雨水の流れ込み防止対策

浸水対策は一例であり、具体的な内容については専門家へご相談ください。

【問合せ先】

(公社) 愛知県建築士事務所協会 名古屋市中区錦一丁目18-24いちご伏見ビル5階

TEL [052]-201-0500

Step4 避難のための準備をしよう

災害時の避難行動をイメージし、命を守るため、災害の危険からまず逃げるための場所である指定緊急避難場所を確認しておきましょう。

名古屋市からの防災情報の入手方法について確認しておきましょう。

浸水対策をおこなっても被災する可能性があります。

気象情報等を確認し早めに避難しましょう。

▶ 指定緊急避難場所

名古屋市ハザードマップ



▶ 防災情報

名古屋市からの防災情報



雨水流出抑制や地震時の液状化対策も調べておきましょう

▶ 雨水流出抑制



▶ 建物の液状化対策

